

## 綱 領

われわれJayceeは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

# JCI 福島JCニュース

FUKUSHIMA  
JUNIOR CHAMBER  
OF COMMERCE

—福島青年会議所新聞—

福島青年会議所新聞

## WEB版 Vol.501

発行責任者 高橋 剛  
編集責任者 井上健太郎  
発行日：2017年1月

## 2017年度スローガン

# Everything

# 2017

# Always

# Changes!

変化を恐れず、変化を楽しめ!

### ■はじめに

「課題先進国」と揶揄されるほど、いまの日本は多くの課題を抱えています。エネルギー問題、人口減少、少子高齢化、地域格差、このような問題は私たちが住む福島も例外ではありません。そして、海外に目を向けるとテロの脅威、貧困問題、イギリスのEU離脱など多岐に渡ります。いまずぐに解決するのは難しい課題ばかりですが、持続可能な解決策を模索し取り組む必要があります。また、日々進化し続ける高度情報化社会、インターネットの普及により膨大な情報があふれ、コミュニケーション手法が大きく変化し、パソコン、タブレットの普及により疑問が簡単に探し出せる時代になっています。地域住民が持つニーズも多種多様化し、その変化も早くなっています。いま一度、足元を見つめ直し、地域が求めているものは何か、取り組むべき課題を明確にし、その変化を恐れず柔軟に対応し、魅力で溢れ、夢を育めるまち福島の実現に向けた事業を展開してまいります。



第54代理事長  
**高橋 剛**

### ■伝統を継承しつつ更なる魅力を発信

「祭り」と聞いて、真っ先に思い浮かぶのは自分が生まれ育った地域の祭りであり、故郷に思い

を馳せる瞬間ではないでしょうか。もちろん、祭りは地域活性化、経済効果、伝統も含めて欠かせないものです。近年希薄化している世代間や地域社会とのコミュニケーションもはかれ、歴史や文化、伝統など様々な情報を発信することができます。私たちの故郷、福島と言えば「わらじ」、知名度も上がり注目を集めるものとなり全国各地へ福島の魅力伝えてきました。更なる魅力向上のために、わらじの繋がりを活用し、活動地域のみならず、福島の魅力を全国各地に広げる活動を積極的に展開します。

### ■福島未来を創造する人財の育成

いまの子ども達は、夢を持ってないと言われていきます。本当にそうでしょうか。青年会議所は、積極的に成長の機会、リーダーシップの機会を与え



る団体です。その機会は、いまの子ども達にも必要なことであります。私たちが子どもの頃、どんな大人になりたいか、どんな仕事をしたいか具体的に考えていたでしょうか。いまの子ども達と何が違うのでしょうか。インターネットの普及による人とのコミュニケーション不足、判断を惑わせるメディアの情報量、受け身の教育かもしれません。要因は様々ですが、例えば「アーティスト」だけをとらえても様々な形があり、職業分類では整理できなくなり、なりたい・就きたい職業選択が難しくなっています。夢を持つ前段階で戸惑いを感じているのではないのでしょうか。具体的な仕事はどんなものかを体験し、夢を育める機会を提供します。

人口減少、景気の停滞など、いま福島も大きな課題を抱えています。福島の生産年齢人口率は全国で20位ほどです。地域を支えていくべき労働力は年々、低下し続けています。いま福島に必要なものはアントレプレナー（起業家）のような高い志を持ち、地域のために課題解決に取り組むことが出来る青年ではないのでしょうか。新たな労働力を生み出すアントレプレナーのような憧れる大人を感じる機会が減っています。なぜ、志、想いを形にしようと思ったのかを学び、福島の未来に必要なものを考える機会を提供します。子は財（たから）です。子ども達に数多く成長の機会を与えることで、自分自身の将来、そして愛する故郷「福島の未来」の創造に大きく寄与すると確信し、事業を展開します。

#### ■魅力溢れるまちにするために

私たちは魅力あるまちづくりのために活動を続

けています。郊外に商業施設があり福島の中心市街地は、人との交流やにぎわいが薄れ、生活空間としての魅力も失われつつあります。地場産業や地域活動と連携することにより「ヒト、モノ、カネ」が循環する持続可能な地域経済を構築することが必要です。中心市街地が活性化し、人が集まるまちにするためにはハード・ソフト両面からのアプローチが必要です。そこに、地域、市民が求めている事業を組み合わせなければなりません。「あのまちに行ってみたい」「あのまちに住んでみたい」新たな価値を創造、模索していかなくてはなりません。楽しいまち＝「福島」の実現のために、人が集まり、交流ができる事業を展開します。また今一度、地域を見つめ、故郷を離れたとしても、またいつかは戻りたい、故郷「福島」にするために、歴史、文化、景観、他の地域にはないソーシャルストックを活用したまちづくりをし、外部企業とも連携・発信することで、魅力溢れるまちの実現を目指します。

#### ■組織を活性化する会員資質の向上と会員拡大

福島青年会議所は、約80名もの「英知と勇気と情熱」を持った人たちの結集です。それぞれが素晴らしい資質と高いポテンシャルを持ち合わせ地域社会で活躍し、活性化しようと弛まぬ努力を続けています。その力を最大限に発揮できる組織運営をし、団結力を高め行動することが必ず地域社会に貢献できるものと確信しています。いままでの53年の歴史と想いを知り、現役会員が力を合わせ新たな歴史をつくっていくという当事者意識を持つことが重要です。会員が30名以下になった場合は解散すると定款にあるLOMも存在します。「この会員数になったら会議所の存続ができない最





悪の事態になる前に、少しでも同志を増やし地域のために活動を継続できることが未来に繋がる。」ただ数にこだわるだけでなく、会員ひとり一人が個の能力を高め、絆を深めていくことが組織全体の活力に変わっていくのです。

### ■意義ある例会

青年会議所の会員は、それぞれ役職・立場・場所で活動、活躍をしています。例会は月に一回、その全会員が集まれる場です。貴重な時間を割いて集まっている例会だからこそ、会員同士の情報交換と共有、また社会人としての教養やスキルアップ、著名人の講演などを拝聴し自己成長の場にするなど、より有意義なものにする必要があります。例会は来るのが当たり前ではなく、是非、行きたい、また福島青年会議所の枠組みだけにとらわれないものにし、市民との関わり合いも持てる例会を運営します。

### ■公益法人格維持継続と厳正な財政審査

新入会員、入会歴の浅い会員が増える中で、公益法人格維持継続のために勉強会を定期的を実施し、公益社団法人として守るべきルール、法令規則を遵守し公益性を確保します。また、福島青年会議所で行う事業の費用は会員会費と、外部からの資金で賄われています。貴重な財源を無駄にすることなく、事業の効果が最大限発揮されるよう適正かつ厳正な財政審査会議を実施します。

### ■視野を広く

前段で述べたように多くの課題を抱える日本、

移民の受け入れを検討し人口減少と労働力のカバー、2045年問題と言われるシンギュラリティ（技術的特異点）による生活環境の変化、その一方でまだまだインフラの整備もままならない地域もあります。グローバルな視点で考え、自分たちが住むローカル地域で活動をしていかなければいけません。

### ■結びに

「変わらないのは変化だけ」

「何もかも常に変化している。」

すべてのものは流れている。」

カンボジア アンコール タ・プローム寺院  
僧侶 タク・タク

昨今、私たちを取り巻く環境の変化は大きく、そして早くなっています。震災をうけ、私たちの生活は大きく変化しました。世界から全国から多くの支援を頂き、自立に向けた道を歩み続けています。変化を拒み、望まない、その方が何をしようでも楽なのかもしれません。しかし、何もなくても刻々と環境は変わっていくのです。変化に対応していかなければ、成長することはないでしょう。「変化を恐れず、楽しみ、変化に対応し成長する」これは簡単なことではありません。しかし、会員と力を合わせることで、早い変化に対応し、地域社会から求められ必要とされる福島青年会議所になるために職務を全うすることをお約束致します。



# まつり継承委員会



副理事長 今野 陽介  
委員長 後藤 洋孝  
副委員長 福井 誠

委員 赤間 亮介 高橋 貴之  
伊藤 大地 高野 智宏  
大宮 篤 新田浩亜吉  
尾形 翔平 宮崎 貴志  
尾形優一郎 吉田 潤平  
酒井 隆弘 渡邊 裕太  
高子 芳典

## ●委員会スローガン

呼び覚ませ福島の誇り、  
紡げ福島の魂(こころ)!!

1. 福島の伝統文化を伝え故郷への想いを醸成する事業の開催
2. 地域団体とのまつりを活かした交流の推進
3. 福島わらじまつりの発展に関わる事業への参画
4. 会員拡大運動の実施
5. 全国大会の引率・参加の取りまとめ
6. 報告書の作成

古来より祭事は、地域の誇りであり、地域の絆を醸成し、文化を伝承する大切な行事でした。

しかしながら、地域が近代化するにつれ、地域の繋がりが薄くなり、まつりもその本来の意義を失いつつあります。いま、多くの福島という地域に住める人々の誇りを呼び覚ますために、祭事本来の意義を継承し、自らの魂を高揚させ、そして伝播し、魅力に溢れ、夢を育めるまち「福島」を実現のため活動していきます。

# ふくしまの人財育成委員会



副理事長 瀬戸 秀典  
委員長 菅原 正裕  
副委員長 太田 憲一

委員 阿部 秀介 旗野 良美  
阿部 真澄 番匠 啓太  
石森 敏彦 藤井 守忍  
遠藤 翼 渡辺  
齋藤 栄太  
佐藤 大吉  
新村 隆文

## ●委員会スローガン

Cheer the NEXT.  
~ Going to infinity and beyond ! ~

1. わらしっ子塾の開催 (小学生対象)
2. ふくしま未来塾の開催
3. わんぱく相撲の開催・引率 (LOM・ブロック)
4. 会員拡大運動の実施
5. 京都会議の引率・参加取りまとめ
6. 報告書の作成

ふくしまの人財育成委員会はこれからの福島の主役となる人財を育成する事業を展開します。「わらしっ子塾」では、普段の当たり前前の生活に感謝し、また多くの友達と自然の中で一緒に遊ぶことの楽しさを知ってもらうためサマーキャンプを開催します。また「ふくしま未来塾」では、海外に行き、現地の学生と交流することで改めて福島の良いところや課題を知ってもらい、福島の子供たちのために自分は何ができるかを考えてもらう海外事業を開催します。「わんぱく相撲」では、19年ぶりの日本人横綱誕生を好機と捉え、多くの子ども達に参加してもらい、盛大に開催します。

青少年育成事業を担当する当委員会メンバーは、将来を担う子ども達が憧れるような存在でなければなりません。子ども達への機会の提供はもちろん、「将来こうなりたい」と思われるような姿勢で一年間、ふくしまの人財育成のため邁進します。



# 夢のまちふくしま創造委員会



副理事長 情野 裕仁

委員長 石郷岡 武

副委員長 佐藤 充孝

委員 伊豆 浩幸 土屋 令雄  
尾形 彰彦 中野 友登  
齋藤 久志 柳沼 綾  
芝田 裕哉 山尾 祥大  
鈴木 正人

2017

## ●委員会スローガン

創造しよう、  
素晴らしいまち福島！

1. 福島市のソーシャルストックを活用した地域愛を醸成する事業の開催
2. 中心市街地活性化を創造する事業の開催
3. 福島市社会福祉協議会との連携強化
4. 会員拡大運動の実施
5. サマーコンファレンスの引率・参加の取りまとめ
6. 報告書の作成

夢のまちふくしま創造委員会は、本年度、以下の事業を展開します。まず、福島市のシンボルでもある信夫山を活用しての「信夫山パークランニングレース」及び「桜の植樹事業」を行います。次に、若年層の市外への流出を食い止め、Uターンを促進するために、若者に福島の魅力を知ってもらえるような「中心市街地活性化事業」を行います。そして、安全安心なまちのために、昨年締結した災害相互協定を軸に福島市社会福祉協議会との連携強化を図ります。委員会一丸となり、魅力に溢れ、夢を育めるまち「福島」実現のため、変化を恐れず、そして楽しく事業を行ってまいります。

# 会員資質向上委員会



副理事長 岸 秀樹

委員長 鈴木 優

副委員長 大和田 諒

委員 安齋 源 杉本 渉  
菅野 太喜 野尻 伸吾  
倉島 央樹 諸橋賢太郎  
駒田 晋一 山際 喬紘  
澤田 健

2017

## ●委員会スローガン

共に創ろう。  
福島に広がる輪、次世代に繋ぐ未来。

1. 会員拡大運動の実施・統括
2. 2017年度12月時点での総会員数110名必達
3. 会員資質向上のための研修の開催
4. 入会予定者セミナーの開催
5. とうろう流し花火大会の設営・運営・参画
6. ブロック大会の引率・参加の取りまとめ
7. 報告書の作成

会員の資質向上は、定期的な研修を開催することにより各メンバーの社会的ルール・マナーの向上等「一般ビジネスマナー」からこれからの福島に対して何をしていくべきか、その為には各会員何を学び伸ばしていく必要があるのかを考えます。また研修で学んだ経験を働いている会社で生かすことで、地域社会の発展、福島青年会議所の魅力アップとなり、会員拡大運動にも繋げていきます。福島を良くしたい、周りに笑顔になってほしいと考える多くの同志を増やし、その輪を大きくしていき次世代に繋いでいく、そんな会員拡大をしていきます。

# 総務委員会



## ●委員会スローガン

### Challenge general affairs ～挑戦する価値あり～

1. 総務に関わる一切の業務及び理事会の議事録作成
2. 福島JCホームページの運営・Web版JCニュース発行・会員向け情報（Web版樺）の発信
3. 例会の設営・運営  
新年会（1月）・創立記念祝賀会（7月）・卒業式（12月）の開催
4. 公開例会の開催
5. 全国JCネットワークとの交流

今年度で54年目を迎える福島青年会議所において、総務委員会では、持続可能な発展を続けていくために、組織基盤を強化し、青年会議所の下支えをしていきます。12回の例会を設営し、会員同士の情報交換・共有はもちろん会員の教養やスキルアップを提供できる様に務め、スムーズな運営となる様に取り組みます。また、今年度は公開例会を開催し、市民に福島青年会議所の活動を知ってもらおうと同時に、市民へ意識変革の機会を提供します。委員会メンバーには、理事会を通し、自分とは異なる観点の意見を知ることにより、自分の選択肢の幅を広げることに挑戦して頂きます。事業の本質を知った上で参加できる醍醐味を知り、参加する意欲を高め、積極的に事業に関わって頂きます。そして、委員会メンバーが福島青年会議所の一員である誇りと、一步上を目指すという覚悟をもって、率先して活動をして参ります。

副理事長 菅野 雅公

委員長 井上健太郎

副委員長 丹野 裕美

委員	菅野 誠也	多田 悠紀
	菅野 秀美	丹治 史博
	紺野 秀元	徳永 直也
	斎藤 秀人	松田 覚
	佐藤 大輔	渡邊 恒博
	佐藤 孝明	



## 2017年組織図

